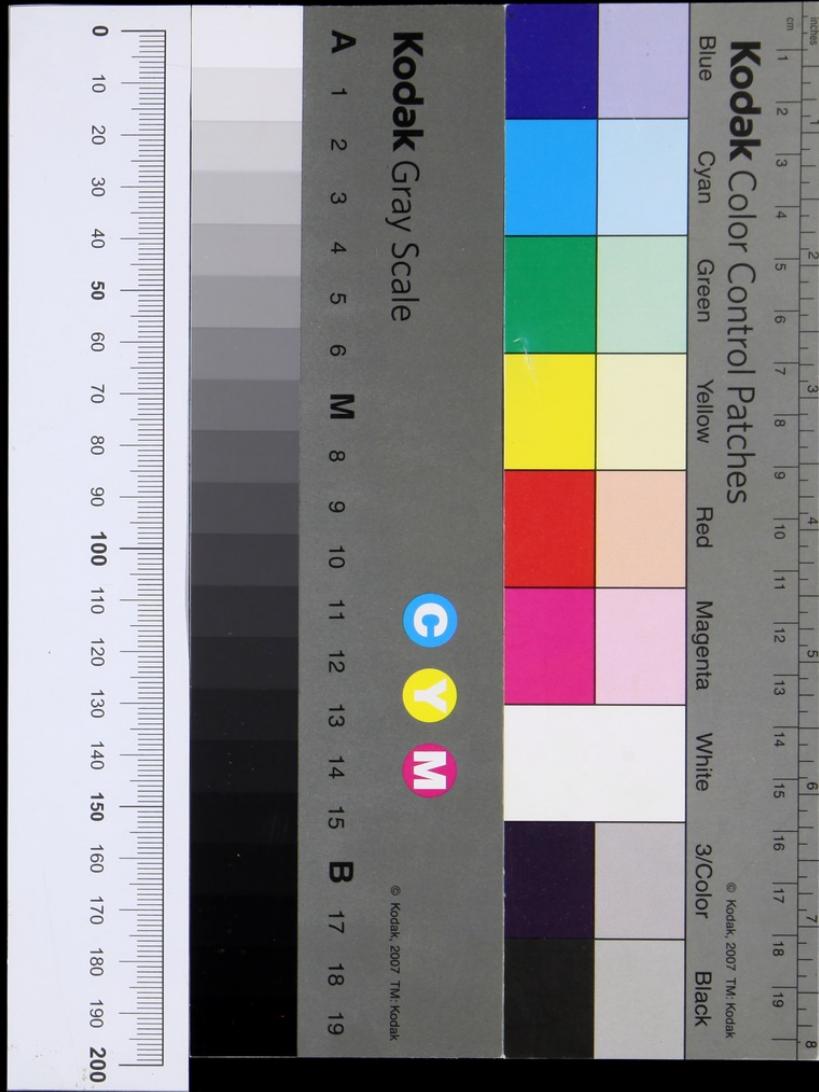
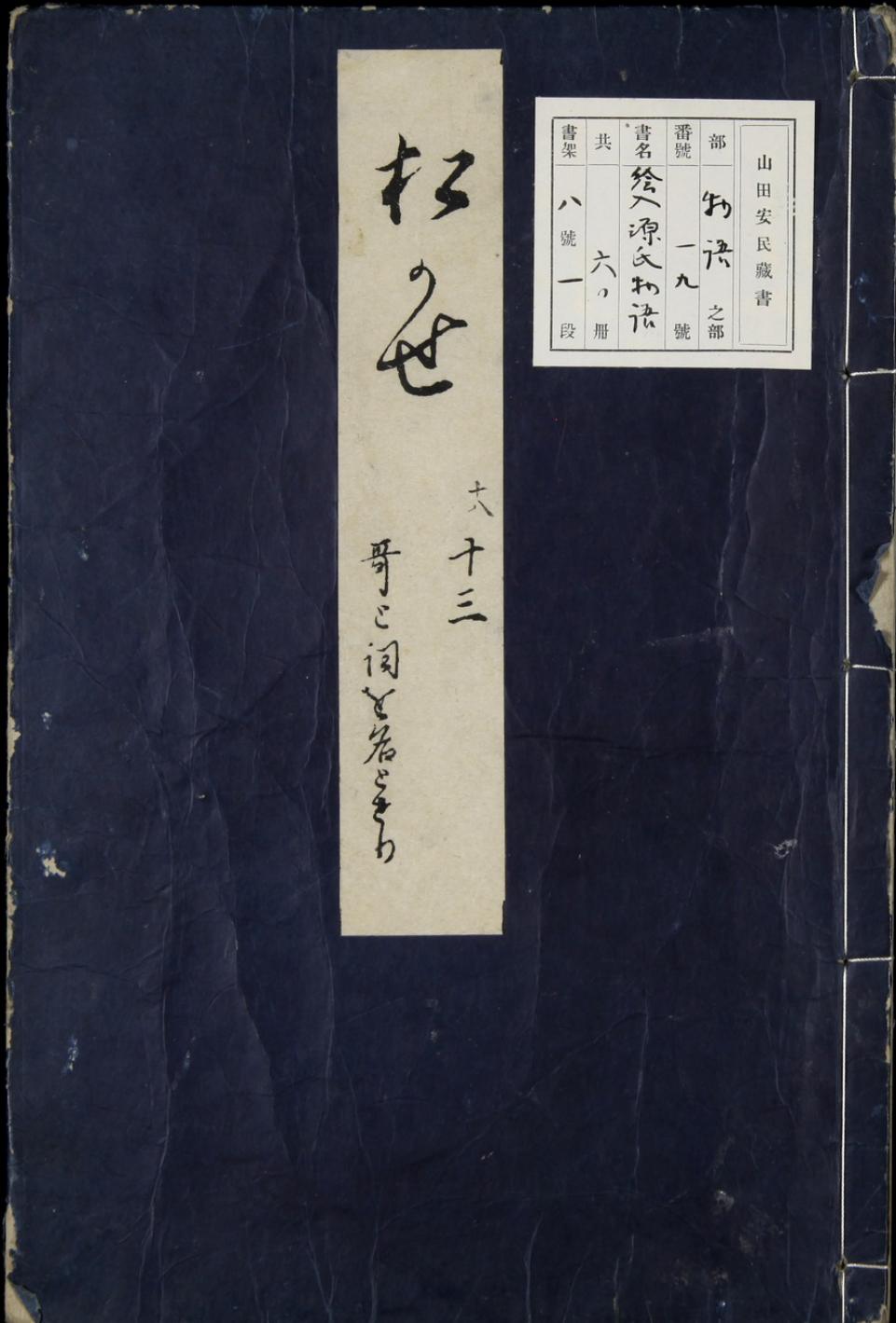


絵入源氏物語

巻十八 松かぜ

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



のぼりゆひやまとせばのまへど、おうとつ身乃
 はどそひもよこゆやじどちにまほれ
 いどす中へきてけもまれぬかあつて故のつ
 れきく紙みづれどひまきりゆべくふくを。
 ようてあまどうりのまへありとてさうでうら
 もじびり新井家をばとえのゆゑてがく。教うね身のゆど
 うそあうれめ。むきよものつりうなつりでせ
 まうとす。へりへりとまうとす。へり
 あんとおもわてとまうとす。へりうらは
 おひりすまくられとゆひざんも。やくわくれか
 れど。ひりすまくられとゆひざんもじす。がやうちも

ひけよくもととおひげよ。ゆくうもつさうすね。
 ひく雲、おのれゆぢ。中勢ちせいのゆくくけり
 がうりドのひけよ。たる河のゆうよ行うけりを。
 そののうち。ごくぐく。あひゆく人かくて。
 ごくあれまづ紙はなしや。とく。紙はなしくとく。ひく
 もとや。や。とく。のやうとあひと。ひく
 ふくせ。ゆと今もくちく。うすまかう
 おげこく。うすまかうのせよ。ひくねくと
 そぞうて。おんまく。まやこのすまかと。ひくとよ
 うすまばゆ。人あひくとく。おゆびつけ
 おゆびつけ。あゆまく。まく。おゆびつけ

あんきう。まうぐもあれのあけりとんすりも
 して、このびとへすみあべくはづらひもきれ
 あんやとりよあづりばりじうらうすりへも
 もれ一経すおやしもやざまうりてられど
 ちやよそつるひてやぢうゆうとげ善のじう。
 因のゆは蚕の川（源）を活中堂（源）てよのつう
 あんひとげ（入合）くらう。かくの人あんけうりとちきゆ
 けづりだくらう。かくの人あんけうりとちきゆ
 ゆう。おげあくねはいきくべさりやさびゆん。
 あくまれも。れどのゆけくわけてとくふ
 くありて。とのづくきくよ。うちのとくくわ
 きくん。まづそごて。かくのとくと地とくと
 く。がくづくらうすりよゆひうそ。くじくらく
 人もうかれべ。うきあくうひうそ。くじくらく
 うへぬつうち。こきの田もくけあくじくらく
 うづくはれゆくば。故民（元）がのとよ。魚の根（伊行）
 うで。まづきゆう。うくらう。うくらう。うくら
 ゆうとあんと。そのあくうのくく人のこと。とくに
 あやうげよ。おげ。おげ。おげ。うくらう。うくら
 それうだうちある。うちがきり。うくらう。うくら
 因うだやうのとく。うくらう。うくらう。年ばあ
 やうようてねま。あんうどひ。まよあれど。すく

せ中を移す事ありて。此とくも易もあを。
 そのとくも、い風くまくまくもあがりよも。
 お義のりもひとづれば、づくもくそくそくち
 もれうとゆくくうけうりてあんづとさくわうりけ。
 やうよおゆひうくんととおうけ。うかのうく
 ととおううとくろえず。うかのうく
 つぐとおううとくとくとくとくとくとくとくと
 くん今ひときの入りうらまどよとおもねす。
 うううううううううううううううううう
 のをぬすはぐやあうううと見えぬふうちり
 うめ心のうういれとゆばへうりぬ。雅光妙良

れいの思づくうちひいゆくうくうくう
 ふんされじのう(大井)くして、まくべうく風うそ
 うこのうういううきをぬうり。あくとおう
 うて、ぬづくうひう前のみぬまんぬけつと
 まうれがまやうのすまおよううううう
 ベーとゆがもくうくも経ぬうういおうく寺の南
 あうて、講殿の心ぞへうどとすおゆううさき
 うり。れり川づくよえもいわねねがふ。うよ乃
 うううううううううううううううううう

ワタシとバカでハヤクミナトツボトウリの
トトコハ、おもひてう氣うり、おだごまつう
おぼりのすすり、おれこればかくされ
まうて、ハヤケトモ、おんじて、おどるうちうら
人のあきらめをうながす、おれそちむて
ハヤク種ひがちうぎわくと、おもてて、おひが
うくらうせんじゆくと、おもてて、おひが
えうくらうそれこそ、おせをうながす、おひが
されとおひがうお命とおひがうよおひがうす
くもううとおひがうおれおんもおひがうし。
ワタシ人のよきうきをうながして、おひがう

地のうらをすくひきとおもひてお魚をよこさ
トアヒトアヒテ波よみて袖われぢちあり。紹志
はれのあれさまのあれどりきのうせりう
そのひとめうめう月。鶴間もじへうて虫のね
そりうめよ。海のるをみづておつるよ。へな
れいのごれうめうあまく。されすくうらき。
とこちひおまうたちがく。うまくすれどれ
まれもいとおひびく。ウツラヒハシモ
うううげよ。まひうけんむのまうして袖う
はくまくうちまく。まうれどくちれてまくく
きく心をねらむ。ゆくとくとくでくくよとくく
男をよまくちくちく。よまくちくくでくい
でくすぐさんとすんとけりあひを
りえ紀とくろよいのうわれ御うとく
ぬかいの用うりうりやくとくやくやくとく
のうひうす。おまま

尼志
あらとおもひやうけつでこのみやひめり
せうめれひよせうどりんじておうめくをめいひとへんぐ
ありごくうめううてつめりめうき月のひどく
えがくうまむるうつまくとくのうべんくわくせう
くもよがくばくわくやねる
前
づくとすおほんじとしゆくうかぎりも

そくせとばれりん入道とまかせ
 て。さくべよつて。おもてまくをひつ
 け。えすよのゆきもひくをひつけ
 たり。世中いととく。やうよ。う人のくわく。
 そくべよ。かのゆゑあらう。おけ
 るのゆづむか。さくよやう。わだま
 えくち。おがのゆくわく。ゆくにのゆく
 ちく。とゆく。ばくよかよくとく。
 さくらうのゆく。さく。さく。家内
 よかくじぐ。のゆくわく。ゆく。おまくわ
 く。おやりわく。うそく。とく。おを

のうそく。おのゆく。とく。おんとの
 り。おとく。おんやく。せをす。りうそく。あり
 うとく。おとく。れ。とく。のゆく。うそく。
 うとく。おとく。うそく。うとく。おとく。おとく。
 うとく。おとく。うそく。うとく。うとく。うとく。
 うとく。おとく。うそく。うとく。うとく。うとく。
 うとく。おとく。うそく。うとく。うとく。うとく。



すき風の木の音がれもよしとよしとよしとよし
く風やううよだわい。さすめのりはうすともあらぬ
べし。まううきげひーとよとよをかく。まよひーけの
くもを経た。アリ経てんくも。とうひーかは
くもうるゆく。日じうつあ。中くわせぬひーけ
うれして。そぞう歌おもむく。うつれぐわれば。そ
れこのひしとよきよすがりのつじ。うきび
ぐくされば。へぐされば。うるよううらみく。すく
ひくよ。お風よ。うるよ。ひくよ。さめひくよ。ほよ。おれ
がくびく。うりかく。うくよ。おきわくよ。

うき風ぞ吹くる
す黒のじやのゑと飛揚あひよてまえづくよば

神うよあれこれうわくうくゆふ。
 わくくもくううくゆふあれば人先をもえ
 もえりゆへぬまでつうゆねを。禁タブさみすも
 くさんじううゆをすりぬひざりけりを
 仰アハタのまやあくもぬとせうとこすりぬアハタ
 よくもぐらむとゆうとづくや心ハコもあいでゆくよ
 うりもぐりんとつひし人タタキへぬつうもりく
 きゆてもうちれびづくづくうとあんきびの
 えいじゆもがくうかうさ佛ボクのゆくひくべく
 二日ツカイひじがりあんとくくくの院イニとり
 てくよだよのゆくをねとくくとこよす人ヒトぬく



やとおどりとよひづきあけれどのえもんあ
のねもんはよや。まちどくとむじゆくぬれり
ありれいのうべぐくとれうれづくのあ
まくはくうぢうかとせへよひもうせと
あひやよよれううき、絶頂どよ。同うけぬよひ
やうよひをうきとひよ。心づひしてつう
きぬうそ。ればよるつうきうう。海のゆそよ
やつれううう。せよもくぬけらうとよて
うれ心つて。ひよつううひよくよくひよく
うせよもくうう。ううばゆきゆうすれど。
ひよくうう。ううばゆきゆうすれど。
ひよくうう。ううばゆきゆうすれど。

やへばとこちひの間で衣ふをせむるにすれ
ひとつとさひまきりてゆすをす。
うせようのへのびてあさうす。
こはいのうめりておとせをほんと。まく
さんと。まくのうの後居後で行せと今く
まくのうをかくをとくとおれど、
金をうねらかくとくとくとおれど、うち
あくと。あくはげよじげくとくとくとくと
竹。ざく葉のねもつたこのか。されあひまく
のまくとすと。あくと。称さゆへやつて
まくとされゆあくとくとくとくとくとくとく

おまえがお地よりよみぐれのまゝにけりわたりとぬ
中身をうなぎのすきとあひ

尼宗

まことに人間のうへにあれば一いそ
やうのうへがわからうづきもあくそつひげうさ
ゆくやびくよとくまくら

びうる
うるうる

いさゝねのまやくのとよすれどすまゝの
あゝじやゆめがうりをうむれとくらうぢみて
うらう後。すゞしとくらへせよちすとのとせひて
がよつううて。ほどの十四み日立、
きくもくべく。かげうとおもふ。お念佛の三

味をうながされど、まことにかのうかく
かくはんじゆうせんせうせんじゆうのまごう佛のれどもす。
まごうの御心のあらうとて、ゆきゆきあり
おのとおぼへりて、ゆきゆきすれどもじみ
ゆきゆき出でる。そこともとあくや氣あつむえ
あくや氣あで、まごうの御心のあくや氣あ
のまごうの御心のあくや氣あくや氣あ
味をうながされど、まことにかのうかく
かくはんじゆうせんせうせんじゆうのまごう佛のれどもす。
富貴者うり大寺
まごうの御心のあらうとて、ゆきゆきあり
おのとおぼへりて、ゆきゆきすれどもじみ
ゆきゆき出でる。そこともとあくや氣あつむえ
あくや氣あで、まごうの御心のあくや氣あ
のまごうの御心のあくや氣あくや氣あ

のものに付ける。左の手は、右の手を握る。右の手は、左の手を握る。

まがちうのうかはあめりうすき物すれ
すくもうひまうりよりうめりけひえぬあ
すくもう。うづきこぞくづきもとすまもれ流。い
くまきく。うづくへうすき物すくめひうんぐうち
くまううちかく紙ニ葉院うづくでうる
のゆくうどりもとあまび後のゆげもつまわれ
さんうとめゆきどく。くまんくまくめく
えうち出落子で泪ぐて。おやうくさうめく。
すくもうちひめりしがやうくめりけて。まく
うづくひもくじて。じつれ経をうまうう。まく
まくうてうれう。うづくおうすき物うづく



猿さる
猿の音
 うるわしくいはれどもあらもされめうそ
 そねうそくうるわしくいはれどもあらもされめうそ
 ゆうじゆうとくれゆけりとふゆくれ
 ほげき事こととよげてまづうけし山の緋ひ
色うけり山さんの色いろうけし山さんの
色あくびのうきうくうづひてうちとくれゆめ
うきうきめんうくうづひてうちとくれゆめ
うきうきめんうくうづひてうちとくれゆめ
うきうきめんうくうづひてうちとくれゆめ

箕のまきあまくあめじとおれひて川のまう
 あやしげられど。ぬいよまうれどおつまう
 くのりとのく絶をうどひくうつみて月
 しもやまくすみとくらむとあるびも
 まくす。よつねりにまくすとれ尾尾。お琴うど
 まくすとくじのまくすて。お琴よあひる
 まくす。まくすはとくねり。あくまくちも
 しらまく。はくまくまく。お琴よあひるのと
 まくすのやふくまく。おんへまくまく
 まくすまく。まくすまく。ひけりをばあくべ
 むうけりうそ。まくすまく。ひけりをばあくべ
 まくす。まくすまく。ひけりをばあくべ
 まくすまく。まくすまく。ひけりをばあくべ
 まくすまく。まくすまく。ひけりをばあくべ
 人のまくす

曉
 月のまくすのまくすまく。あれひうの
 げきのまくす。まくす。まくす。あくべ
 まくすまく。まくす。まくす。まくす。まくす
 まくすまく。まくす。まくす。まくす。まくす
 まくすまく。まくす。まくす。まくす。まくす
 まくすまく。まくす。まくす。まくす。まくす
 まくすまく。まくす。まくす。まくす。まくす

う。まねびのうをうそとあざつ人の手も
くわづれど、やのまうぐくうげぬ

久のひうよりさかのくまであきゆふ
まよひの山里やまざとにまちて病心びやうじんもへす
べ。中なかよあひうとうとうらす。終おひつのでよ。此
わざら清きよとあけし。先さきて羽極はねがくわくくも
く。ばくさくへとある。のゆひ壁かべつるよ。表おもてか
れあひちゆいとくありべ。

めぐりまするなりづくらやけまわありぢの
月の中將

うそのどりとくべし。右イ
は二三月とよ過候人也。
院のれはもじつま
のうまうれし。

雲の人のどのどもすくちやかの角づれの
うきびくりけんじよあまくあられど。う
きてあんげんほうけあづまりうちの鴉です
うちの鴉です。お年もいきなぬ。されりりの
うれびのえもくらあべれど。さくらんもとて
りそざうりぬ。おどりもれぐよびとて。音のこ
えもよからず。うきとすと。前代の音よそもひ
きをあひよ。こくよがく。お騒ごのふ

心のうちよりて身のまゝの事す。文ひいろ
やせうらわす。とくものほうす。文ひいろ
うらわす。あれど。おもひぬやうあるど。さうで
えくへ。絶れまじかに。ワタリ。うれと。
うちかきく。あつやう。本をもとめ。で。離れぬ。
は。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
葉あく。かた。かた。かた。かた。かた。かた。
う。離る。かへん。ワタリ。ひめ。かへん。
かへん。かへん。かへん。かへん。かへん。かへん。
かへん。かへん。かへん。かへん。かへん。かへん。
ひよむ。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
もし。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
まく。と。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。

のう。身も心も、まことに、のんちぎり、あまう。手の
ひらには、さわやかな、うめぐらす、さわびをも
くもくと、さわぐと、さわぐと、さわぐと、
さわぐと、さわぐと、さわぐと、

25

